

花巻市 博物館だより

HANAMAKI
CITY MUSEUM



No. 75

2025.4



花巻市博物館IP



Facebook



Instagram

目次

- ▶P1テーマ展「酒造りのわざー南部杜氏の美酒をたどるー」 ▶P2令和7年度展示案内 ▶P3令和7年度講座・ワークショップメニュー
- ▶P4テーマ展「酒造りのわざー南部杜氏の美酒をたどるー」 ▶P5テーマ展「戦後80年 戦争と花巻」
- ▶P6活動レポート「令和6年度市内小中学校利用状況報告」・市史編さん室からのお知らせ
- ▶P7館長コラム・インフォメーション ▶P8花博コレクション

花巻市博物館令和7年度テーマ展

酒造りのわざ

ー南部杜氏の美酒をたどるー



写真：酒造風景（川村酒造店／昭和期）花巻市教育委員会文化財課所蔵

2024年12月、日本の「伝統的酒造り」がユネスコの無形文化遺産に登録されました。杜氏や蔵人などが麹菌を用い、長年の経験に基づいて築き上げてきた日本における酒造りの技術は、500年以上前に原型が確立したといわれています。日本各地の気候や風土に応じて発展し、日本酒、焼酎、泡盛、みりん等の製造に受け継がれてきました。また、祭事や婚礼といった日本の社会文化的行事に酒が不可欠な役割を果たしており、伝統的酒造りはそれを根底で支える技術でもあります。

岩手県花巻市石鳥谷町は、江戸時代から酒造りの盛んな地域で、農閑期の出稼ぎの手段として酒造りに携わる人々が多くいました。「南部杜氏」と呼ばれる南部流の酒造技術の伝統を受け継ぐ杜氏たちは、現在も全国各地の酒蔵で活躍し続けています。

令和7年度

展示案内

●テーマ展「酒造りのわざ ～南部杜氏の美酒をたどる～」

期間：4月24日(木)～6月22日(日)

日本の伝統的な酒造りの一翼を担ってきた南部杜氏が当地方で誕生し、酒造技術を継承してきた歴史、酒造りにまつわる文化について、酒造用具等を通じて紹介します。



国指定重要有形民俗文化財 南部杜氏の酒造用具

★関連事業：ギャラリートーク等

●テーマ展「戦後80年 戦争と花巻」

期間：7月5日(土)～8月24日(日)

1931年の満州事変から1945年の終戦までの15年間を中心に、花巻や周辺地域における戦争の歴史を、当時の貴重な資料を通して紹介します。



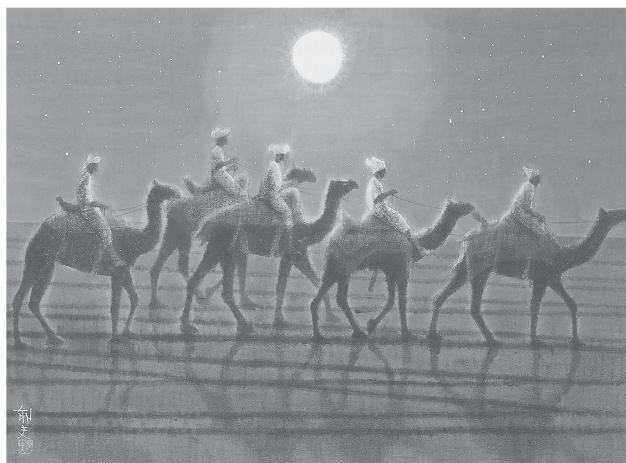
花巻空襲上空写真 昭和20年8月10日
(アメリカ国立公文書館所蔵)

★関連事業：特別講演会、特別上映会、
ギャラリートーク

●特別展「佐川美術館コレクション 平山郁夫展」

期間：9月6日(土)～11月3日(月祝)

佐川美術館が所蔵するコレクションのうち、平山郁夫の作品を紹介。シルクロードを主題として描いた作品から、同氏が携わった文化財保護活動に関連した作品を中心に展示します。



月下シルクロードを行く 2001年

★関連事業：記念講演会等

●テーマ展「次世代へ繋げる花巻の歴史 －花巻市史編さんによる調査経過」

期間：令和8年1月31日(土)～4月12日(日)

市史編さん室では、花巻の歴史文化を総合的にまとめた『花巻市史』の編さんを進めています。次世代へ花巻の歴史を繋げるため、市史編さん過程で明らかになったことを、調査収集した資料とともに紹介します。

★関連事業：ギャラリートーク

●石鳥谷歴史民俗資料館収蔵庫公開

期間：4月24日(木)～5月31日(土)

10月1日(水)～10月31日(金)

現在休館中の石鳥谷歴史民俗資料館収蔵庫に所蔵している国指定重要有形民俗文化財「南部杜氏の酒造用具」を期間限定で無料公開します。

※展覧会の詳細はHPでもお知らせいたします。

令和7年度 講座・ワークショップメニュー

博物館では、花巻の歴史や文化をより詳しく、そして楽しく学んでもらうために、講座やワークショップを行っています。令和7年度も様々なメニューを用意しましたので、ぜひご参加ください。

《講座》

◎館長講座

- 第1回 6月15日(日)
第2回 10月12日(日)
第3回 2月1日(日)

◎学芸員講座

- 第1回 6月8日(日)
第2回 7月13日(日)
第3回 3月8日(日)

◎古文書講座

講師：兼平賢治氏（東北学院大学教授）

- 第1回 7月19日(土)
第2回 10月5日(日)
第3回 1月18日(日)

★各講座聴講無料、要申込

★詳しい内容はHP、SNS等でお知らせします

《ワークショップ》

◆勾玉づくり

日にち：5月3日(土・祝)

内 容：滑石を削って、磨いて、古代のアクセサリー「勾玉」をつくります。

材料費：340円

定 員：20名 要申込



◆琥珀玉づくり

日にち：5月4日(日・祝)

内 容：琥珀を削って、磨いて、古代のアクセサリー「琥珀玉」をつくります。

材料費：2,200円

定 員：20名 要申込



◆縄文弓矢・火起こし体験

日にち：5月5日(月・祝)

内 容：弓矢を使った的当てと、木を使った火起こしに挑戦します。

材料費：無料

定 員：20名 要申込



◆花巻人形絵付け体験

日にち：7月27日(日)・3月22日(日)

内 容：平賀工芸社の平賀恵美子さんを講師に迎え、花巻人形の絵付けを体験します。

材料費：1,600円～

※選ぶ人形によって、値段が変わります。

定 員：20名 要申込



◆鍛冶丁焼づくり

日にち：10月19日(日)

内 容：鍛冶丁焼窯元の阿部太成さんを講師に迎え、鍛冶丁焼づくりを体験します。

材料費：1,500円

定 員：15名 要申込



◆台焼づくり

日にち：11月9日(日)

内 容：台焼窯元の杉村峰秀さんを講師に迎え、台焼づくりを体験します。

材料費：1,500円

定 員：15名 要申込



◆成島和紙ランプシェードづくり

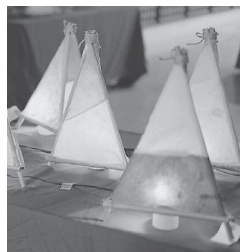
日にち：11月23日(日・祝)

内 容：楮キットを使用してランプを作ります。

材料費：1,000円

※LEDランプを希望の場合+150円

定 員：20名 要申込



※講座・ワークショップの場所は博物館講座体験学習室、時間は13時30分～15時までを予定しています。

※お申し込みは開催日の1ヶ月前から、申込みフォーム、お電話にて受付します。

※講座・ワークショップともに内容に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。

令和7年度花巻市博物館テーマ展

「酒造りのわざ — 南部杜氏の美酒をたどる —」

令和7年4月24日(木)～6月22日(日)

岩手県の中央部に位置する花巻市石鳥谷町は、古くから稲作が盛んで良質なお米がとれる県内屈指の穀倉地帯です。北上盆地西側に連なる奥羽山系などから湧き出る豊かな地下水を水源とし、日本酒造りに適した寒冷な自然環境とあいまって、隣接する紫波郡紫波町と共に江戸時代から酒造りが盛んとなりました。

日本酒造りの現場における最高責任者を「杜氏^{とうじ}」と呼びますが、杜氏は高度な技術者という側面と、チームをまとめる監督としての側面を合わせ持った仕事です。日本の各地方には、杜氏集団が存在しており、紫波郡紫波町・花巻市石鳥谷町は「南部杜氏^{なんぶとうじ}」の発祥地とされています。

南部杜氏は、越後杜氏^{えちごとうじ}（新潟県）、丹波杜氏^{たんばとうじ}（兵庫県）と共に日本三大杜氏の一つとして全国にその名が知られています。現在も酒造りに従事する数は日本最大規模を誇り、全国各地の酒蔵で、南部流の酒造りによるすっきりとした芳醇な味わいの酒を醸^{かも}しています。

全国的に有名な南部杜氏ですが、その発祥と発展の基盤となったのは、江戸時代初めから盛岡城下と領内の商業や物流を先導した、現在の滋賀県を拠点とする近江商人の活動であるとされています。盛岡藩の近江商人は、「小野」「村井」などの姓を名乗り、井筒屋、近江屋など、多くの店を開いて隆盛を極めました。こうしたさなか、藩侯の跡目相続に端を発した八戸藩の分立後、紫波地方は「志和通」（現在の紫波町上平沢、稲藤、上土館、北片寄、中片寄、南片寄）として八戸藩の一部となります。

近江屋一族の村井権兵衛^{むらいごんべえ}は、八戸藩より酒造りの営業権を認められ、上平沢村（現在の紫波町上平沢地区）において酒屋を開業しました。権兵衛は、藩の定めに従った酒造石高の確保と上質な酒（澄^{すみ}酒）を安定的に醸造するため、摂津国池田（現在の



酒樽〔石鳥谷歴史民俗資料館所蔵〕

大阪府池田市）から当時最先端の酒造技術を誇った池田流杜氏を招いて酒造りを行ったと伝えられています。この本場の技術が、酒造りに携わ

る地元の人々や、流通経路にあった周辺地域へと伝播し、現在まで脈々と受け継がれる南部流酒造りの源流となったと言われています。



南部杜氏発祥の碑

そして、酒造りが盛んになるにつれ、江戸時代後期ごろから志和や石鳥谷地域などの人々は、稲作の収穫が済んだ農閑期の出稼ぎの手段として他藩へ出向き、「南部領出身の杜氏」として酒造りを領外で行うようになります。

その技術の高さは全国的に知られるところとなり、今に至るまで多くの南部杜氏が岩手県内外を問わず、各地の酒蔵で日本酒造りに携わっています。「南部杜氏」の呼び名は、杜氏たちが自ら名乗ったものではなく、出稼ぎ先の他領の人々から酒造りの熟練技術者として「南部から来た杜氏」という尊敬の意味を込めて呼ばれたものでした。

酒造風景（川村酒造店/昭和期）
〔花巻市教育委員会文化財課所蔵〕

本展では、南部杜氏が当地方で誕生し、酒造技術を継承してきた歴史、酒造りにまつわる文化について酒造用具等を通じて紹介します。

(学芸員 高橋静歩)

◆関連イベント

・特別講演会

講師：三島黎子氏（作家『南部杜氏の源流』著者）

日時：6月1日(日)13時30分～15時

場所：花巻市博物館

講座体験学習室

定員：30名

(聴講無料、要申込) 申込みフォーム
(5/1⑥から申込開始)

・ギャラリートーク

日時：5月18日(日)13時30分～14時30分

場所：花巻市博物館企画展示室

※申込不要、国際博物館の日のため入館無料

◆本展をご覧いただいたチケットの半券持参で
南部杜氏伝承館にて日本酒の試飲1杯無料

令和7年度花巻市博物館テーマ展

「戦後80年

戦争と花巻」

令和7年7月5日(土)～8月24日(日)

1 はじめに

昭和20年(1945)8月15日、日本全土で300万人以上にも及ぶ犠牲者を出した太平洋戦争が終結しました。そして、終戦間際の8月10日、ここ花巻でもアメリカ軍による空襲の被害にさらされ、多くの尊い命が失われました。

太平洋戦争の終結から間もなく80年を迎えますが世界からは未だ戦争は無くなりません。そして、かつての戦争の記憶をもつ人々が少なくなっていく時代に至り、私たち博物館には戦争を二度と繰り返さないと発信する役割があると考えます。

本展では、昭和6年(1931)の満州事変から昭和20年の終戦までの15年間を中心に、花巻や周辺地域における戦争の歴史を、当時の貴重な資料を通して紹介します。

2 花巻空襲

昭和20年8月10日、花巻の街は戦火に見舞われました。アメリカ軍による爆撃と機銃掃射が行われた花巻駅周辺は甚大な被害を受け、現在の上町や双葉町、豊沢町などの広い範囲が火災で焼失しました。

また、花巻町での爆撃とほぼ同時刻に、当時の国鉄釜石西線の似内駅でも客車めがけて爆撃と機銃掃射が行われました。

この日の空襲で50名近い方が亡くなっています。



花巻空襲上空写真/昭和20年8月10日
(アメリカ国立公文書館所蔵)

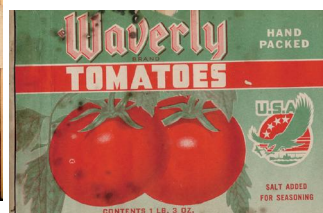
煙が上がっているのが現在の上町・豊沢町周辺。写真上部には、爆弾を落とした米軍機の機影が写っています。

3 展示資料

・「苦斗じだい」(館蔵)



「苦斗じだい」
タイトルページ



トマト缶のラベルの裏にも
日記が書かれている

「苦斗じだい」は、太平洋戦争末期にニューギニアで戦死した日本兵が残した戦地日記です。この日記を記した刈屋隼人陸軍中尉は宮沢賢治の末妹の義弟にあたる人物です。

戦地での出来事やジャングルで友軍を待つ孤独、故郷への思いなどが綴られたこの日記は、原稿用紙だけでなく米軍の貨物庫から奪取した煙草や缶詰などの包装紙の裏面にも書き留められています。困窮する戦地においても懸命に生きようとする刈屋中尉の姿が窺える資料です。

(学芸員 松橋香澄)

◆関連イベント

・特別講演会

「花巻と戦争」

講師：加藤昭雄氏(『花巻が燃えた日』著者)

日時：令和7年7月20日(日)

13時30分～15時

場所：花巻市博物館 講座体験学習室

定員：30名(聴講無料、要申込)

・特別上映会

「戦争の足跡を追って 北上・和賀の十五年戦争」

監督：都鳥伸也氏(登壇予定)

日時：令和7年8月11日(月祝)

13時30分～15時30分

場所：花巻市博物館 講座体験学習室

定員：40名(入場無料、要申込)

活動レポート 令和6年度 市内小中学校利用状況報告

博物館と学校とが連携して児童生徒の学びをサポートする「博学連携事業」に関して、市内の小中学校の花巻市博物館の利用状況についてお知らせします。

1 見学の利用状況

学 年	見 学 内 容 等
小学校6年生 (5校)	・常設展示室見学(見学用学習ガイド使用) ・縄文ワールド見学(開催期間内の場合)
中学校総合文化部 (1校)	・武具の解説～甲冑試着体験、武具観察体験 ・常設展示室見学(花巻城中心)
中学校1年生 (1校)※	・①バックヤード見学、②縄文ワールド見学、③ 職場理解講義をローテーションで実施



学芸員による奥羽仕置の解説



収蔵庫で資料管理について解説

※印…職場体験(2年生)の前年に、「職場」を理解してもらうという目的での見学でした。

①バックヤード見学では収蔵庫で収蔵品の扱いなどを学び、②縄文ワールド見学では展示の意図などを学び、③職場理解講義では学芸員になる道筋などを学びました。

2 出前授業の利用校数

プログラム名	小学校利用校数	中学校利用校数
戦争と花巻空襲	0校	3年生 1校
多田等観	6年生 1校	0校
昔の道具と暮らし	3年生 11校	0校
※神楽の歴史と継承の意義	0校	全校 1校
※菅原隆太郎先生と宮澤賢治	6年生 1校	0校



学芸員による戦争資料の解説



学芸員による多田等観の解説

※印…「ふれあい出前講座(館長講話)」の形で実施しました。

3 中学生の職場体験

職場体験の利用申し込みが4校からあり、計6人を受け入れました。Instagram対応の写真撮影や説明文作り、「アニメージュとジブリ展」のチケットのもぎりなどを体験してもらいました。



インスタ準備



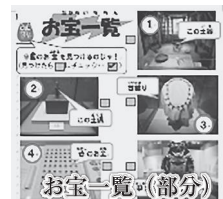
チケットもぎり

4 学年PTA行事での体験学習

学年PTA行事での体験学習利用(常設展示見学と弓矢・火起こし体験)が小学校で1校ありました。常設展示室の見学では、低学年向けの「お宝発見ツアー」を新たに実施しました。楽しく活動できたようです。



火起こし体験



お宝一覽(部分)

市史編さん室からのお知らせ

花巻に関する古い資料はありませんか？

花巻市博物館では、「花巻市史」の編さんを令和4年度から行っています。本市に関する資料を収集していますので、下記の資料の情報をお持ちの方は、博物館までご連絡ください。

■探している資料

- ◎和紙に墨で書かれた古い文書や図面
- ◎町の風景を撮った古い写真・絵葉書
- ◎自治会・各団体の記念誌、商店街のチラシ、ポスター
- ◎その他、花巻の歴史がわかる資料



昔の本市の様子が分かる絵葉書

館長
コラム近世考古学の
はじまり

江戸東京博物館は、大規模改修工事のため2022年から休館しているが、改修前の博物館の常設展示室には、私が学生時代に発掘調査に参加した一橋高校内遺跡の出土品などが展示されていた。

一橋高校内遺跡は、1975年に学校校舎の建て替え中に発見され、急遽発掘調査が行われた。ここでは、地下1～3mから江戸時代の町並みの一部が発見され、寺院や商家、上下水道・地下室（むろ）などの遺構や、数多くの生活用具が出土した。当時は、大学から近いこともあって、私も早い時期から同級生数人と参加していたが、地下で発見された遺構の周辺は、低地であったためかヘドロの臭いが強く、アルバイトで募集された学生たちは数日で皆辞めてしまった。しかし、私たちは格好良く言えば、考古学者を目指す「考古学徒」であったことから、調査期間が終わるまで頑張った。

調査現場で印象に残っているのは、江戸の歴史上最も大規模な火災となった「明暦の大火（振袖火事）」の焼土層。その厚さに驚き、発掘調査は現実に起こったことを掘り出す仕事なのだと改めて実感した。毎日のように通っていると、不思議なことに臭いはほとんど感じなくなった。後で知ったことだが、人の嗅覚は疲れ易いらしく、慣れてしまうと臭いを感じにくくなってしまうものなのか。

ある日、同級生数人と現場から出て一緒に電車に乗ると、少し混んでいた電車の乗客が、私たちの周りだけいないことに気づいた。その理由はほどなくわかった。どうも私たちは相当に「クサイやつら」であったらしい。いつの間にか、服だけではなく、体にも髪にも例のニオイが染みついていたのである。

2025年1月、江戸遺跡研究会主催による「江戸遺跡研究の論点と現状～都立一橋高校発掘調査50周年～」というフォーラムが日本大学で開催された。一橋高校内遺跡の発掘調査が、東京で近世考古学が本格的に始まる端緒になったとされており、あの悪条件の中で少しでも手伝うことができたことは感慨深い。

令和7年4月～7月の行事予定

【企画展示室】

●テーマ展「酒造りのわざ

ー南部杜氏の美酒をたどるー

会 期：4月24日(木)～6月22日(日)

●テーマ展「戦後80年 戦争と花巻」

会 期：7月5日(土)～8月24日(日)

【ワークショップ】

ワークショップのオンライン申し込みはこちら▼



勾玉づくり



琥珀玉づくり



縄文弓矢
火おこし体験



花巻人形
絵付け体験

【講 座】

◆館長講座－1

「花巻の道標は語る～北上川東岸の様相～」

日 時：6月15日(日) 13:30～15:00

定 員：30名 ※要申込

費 用：無料



館長講座－1

◆学芸員講座－1

「古代花巻地域の集落遺跡と赤彩土師器」

日 時：6月8日(日) 13:30～15:00

定 員：20名 ※要申込

費 用：無料



学芸員講座－1

◆学芸員講座－2

「戦後80年 戦争と花巻」

日 時：7月13日(日) 13:30～15:00

定 員：20名 ※要申込

費 用：無料



学芸員講座－2

◆古文書講座

講 師：兼平賢治氏(東北学院大学教授)

日 時：7月19日(土) 13:30～15:00

定 員：20名 ※要申込

費 用：無料



古文書講座

※古文書講座は第1回のお申込みで全3回のお申込みとなります。

※ワークショップ、講座ともに参加申込みは開催日の1か月前から前日までに申込みフォームまたはお電話にてお申込みください。
※各ワークショップ、各講座の会場はいずれも花巻市博物館講座・体験学習室です。

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松第26地割8番地1
電 話：0198-32-1030 FAX：0198-32-1050
開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで
休 館 日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

※()内は20名以上の団体割引料金です。

※割安な近隣4館共通券もあります。

※特別展示を行う場合、別に入館料を定める場合があります。

URL: <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1008981/index.html>

交通案内

◆バス

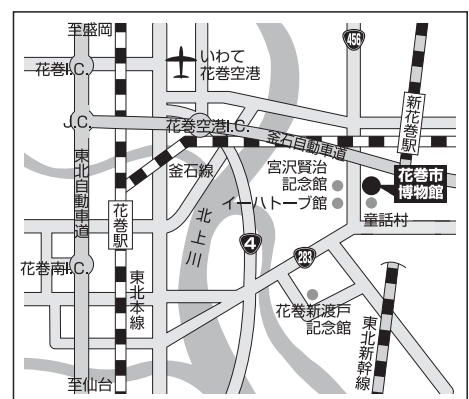
新花巻駅→賢治記念館口
コミュニティバス 土沢線
シーナシーナ花巻前行…約5分
花巻駅→賢治記念館口
コミュニティバス 土沢線
道の駅とうわ行…約20分

◆車

花巻空港ICより…約10分

◆徒歩

新花巻駅より…約25分



HANAHAKU

花博コレクション

COLLECTION

花卉図



池田龍甫

材質／絹本着色 サイズ／37.5×125.0

いけだりゅうぽ

池田龍甫は明治20年（1887）盛岡に生まれ、盛岡の日本画家で川口月村の弟子でもある吉田雪村に絵を習いました。明治39年（1906）に上京、私立京華中学4年に編入し、明治41年（1908）3月に卒業。その後寺崎広業てらさきこうぎょうの主宰する天籟画塾てんらいがじゅくに入門して修業を積み、明治43年（1910）に東京美術学校（現東京藝術大学）日本画家に入学。美術学校在学中に「萌ゆる日」が文展入選。日本画科で在学中に文展に入選したのはこれが初めてで華々しいデビューとなりました。以後文展や帝展で入選を重ねていきますが、太平洋戦争が始まると昭和19年（1944）に戦火を逃れるために帰郷します。終戦後は県立美術工芸高校の設立に尽力し、同校の教授や、のちに岩手大学特設美術科の講師として長く郷土の後進の育成に携わります。

この作品は牡丹を中央に、その左に木瓜（ぼけ）と白菊の花を、右には水仙の花と南天の実を描いています。中央の牡丹の花弁ひとつひとつが細やかに描画されていて、周りに描かれた木瓜や南天の鮮やかさが目をひきつつも、中央の牡丹を邪魔せず、まとまりのある華やかな構成となっています。龍甫は「金より高い」という高価な岩絵の具や中国製の墨、純粋な絹の画布をつかい、胡粉を溶いたニカワで練り上げていくときの微妙な温度の加減や、強く練るために板の間にたたきつけるといった手間ひまをかけ制作していました。この作品をみても花卉や葉に絵の具の鮮やかさが残っており、画面に引き込まれます。終戦後は高価な画材を使用しているが故に、なかなか自分の思い描くような作品を制作する機会に恵まれなかったという龍甫ですが、最期まで一級品の画材を使うことにこだわりがあったといいます。そこには作品にかけるこだわりや情熱、師である寺崎広業から受け継いだ大和絵を残していきたいという龍甫の決意が感じられます。

（学芸調査員 藤原希海）